

高知工科大学における授業評価システムの実状と改善案

1160421 近藤 宇

高知工科大学マネジメント学部

1. 概要

高知工科大学では教員の評価を学生が回答する授業評価を基準に決定する授業評価システムが採用されている。しかし、このシステムに関する学生側の関心は低く、適切な評価が行われているとは断言できないというのが実状である。本研究では、高知工科大学生へのアンケートを行い、授業評価アンケートの問題点を洗い出し、改善案を提案する。アンケートの結果、学生は授業評価アンケートの意義を感じておらず、また意欲も低いことがわかった。教員の評価を適切に実施するためには授業評価システムの方式を変更し、具体的な学生の意見をさらに収集できるようにアンケート内容を見直すなどの対策を行う必要がある。

2. 背景

高知工科大学では平成9年の開学以来、授業評価を学生が大学ポータルシステム内に掲示されるアンケートに回答することによって決定する授業評価システムを実施しており、そのシステムは平成20年から開設されたマネジメント学部においても同様に行われている。このシステムは『学生にとって、より「魅力的な授業」「わかる授業」を実現するためのものであり、学生の声を教員に届けることで、その講義をより充実したものへと改善する（工科大HP）』ことを目的としている。その一方でこの授業評価は教員の評価に直結し、給与や昇格の基準として用いるという重要な役割も担っている。しかし、学生は自身が履修した講義についてのアンケートには全て回答しなければならないため、学生からは不評の声が多いという側面もある。

現在の授業評価アンケートは、全8問で構成されている。質問にはそれぞれ0点から4点までの選択肢が設けられており、点数が高いほど高評価となる。問1～問6までの質問は授業に対する教員側の取り組み、学生側の取り組み、学生の授業内容に対する感想を問うものとなっており、これら6問の点数の平均が総合点として教員の評価に反映される。そして問7、問8の質問は学生が感じた科目の難易度を問う内容となっており、点数が高いほど難しいという結果となる。しかしこれら2問の点数は教員の評価に反映されていない。現

在のアンケートの質問内容は平成25年度3Qから採用されたものであり、それ以前は問7、問8が講義の難易度ではなく、学生自身の講義への出席率を問うものとなっていた。

アンケート内容が変更された平成25年度3Qから現時点で最新の平成27年度3Qまで（夏季および冬期集中講義を除く）の各クォーターのアンケート集計結果から、問1～問6の平均点である総合点と、問7と問8の平均をとった値を難易度点として、相関関係を調査した。その結果、すべてのクォーターにおいて、難易度点が低い程、総合点は高いという負の相関の傾向が見られた。（図2-1・図2-2・図2-3）

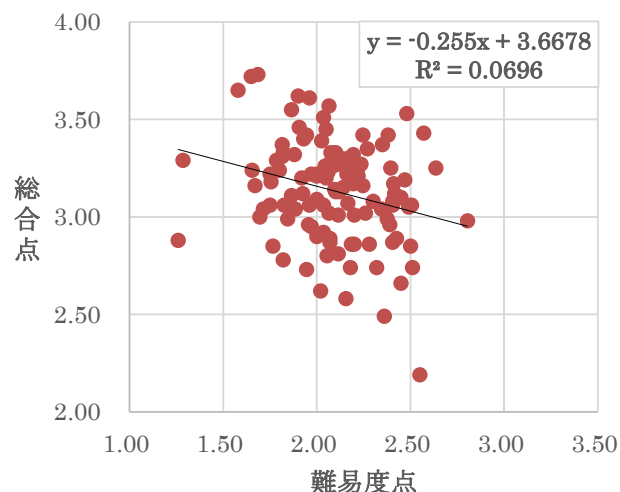


図2-1 総合点と難易度点の相関（平成25年度3Q）

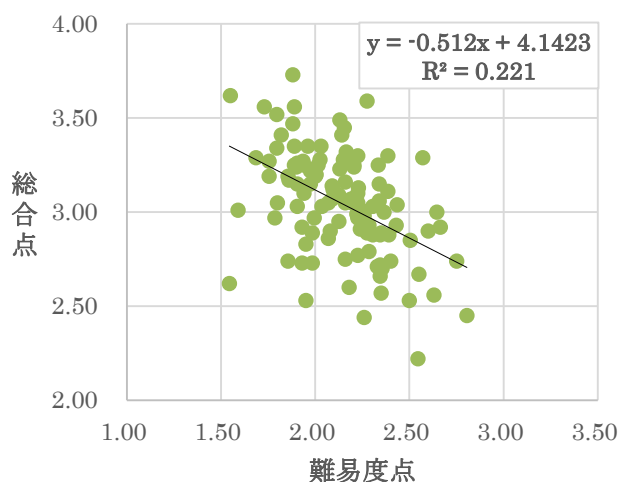


図2-2 総合点と難易度点の相関（平成26年度3Q）

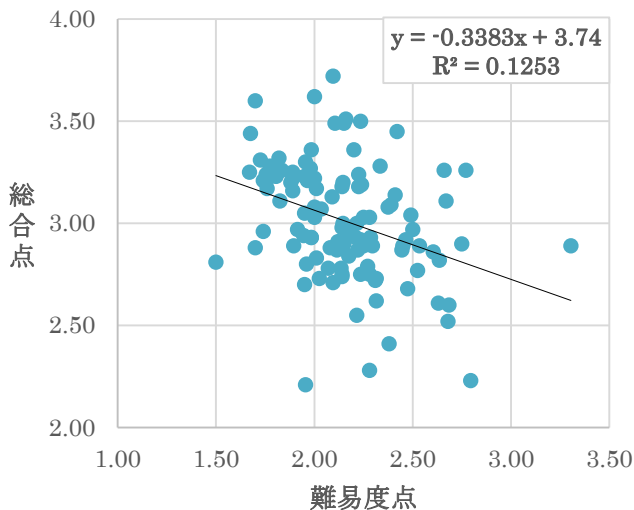


図 2-3 総合点と難易度点の相関（平成 27 年度 3Q）

教員の評価を決定する問 1 から問 6 までの質問は、教員側と学生側の努力度と講義内容の充実さを問う質問であり、また授業の難易度は科目によって様々である。したがって、本来ならば科目の難易度との相関関係は無いはずである。しかし実際は上記のような結果となっており、学生たちは教員の授業への取り組みではなく単純な授業の難易度で評価を決定している可能性がある。このことから、現在の授業評価システムでは適切な教員評価が行えているとは言い切れない。質問内容や授業評価システム自体の方式を見直すことで、より適切な教員評価を行えるような対策をとることが必要である。

3. 目的

本研究では、高知工科大学の学生へのアンケート調査を行い、現在の授業評価システムの問題点を洗い出すとともに、より適切な教員評価を行えるためのシステムの改善案を提案する。

4. 研究方法

本研究では、高知工科大学の学生に対するアンケート調査を実施する。アンケート内容は主に「授業評価アンケートに回答する際の基準」、「授業評価アンケートは必要だと思うか」、「大学の授業に求めているもの」について問うものとし、このアンケートから現在の高知工科大学における授業評価アンケートや授業に対する意識を調査する。最後にこの調査から現在の授業評価システムの問題点を整理し、より適切な教員評価を行えるシステムの運用方法を検討する。

5. アンケート内容

近年の授業評価アンケートの統計から、高知工科大学が難易度の低い授業に高い点数を回答していることが判明して

おり、現状では教員の評価が適正に行われているとは言い難い。このことから高知工科大学の授業評価システムへの関心を調査し、どのような意識を持ってアンケート回答を行っているのかを明らかにするため、高知工科大学 50 人にアンケートを実施した。

アンケートの質問内容は以下の 6 問とした。1～4 問目までの質問では選択式とし、5 問目と 6 問目は自由記述式とした。

1. 授業評価アンケートを回答していますか？
2. 授業評価アンケートに回答する際に基準としているものは何ですか。（複数回答可）
3. 授業評価アンケートは必要だと思いますか。
4. 問 3 で「必要ない」と答えた方へお聞きします。なぜ「必要ない」と思いますか。（複数回答可）
5. 授業評価アンケートがどのように改善されればいいと思いますか。
6. 大学の授業に何を求めていますか。自由に記入してください。

6. 結果

アンケートの結果は次のようになった。

1. 授業評価アンケートを回答していますか。

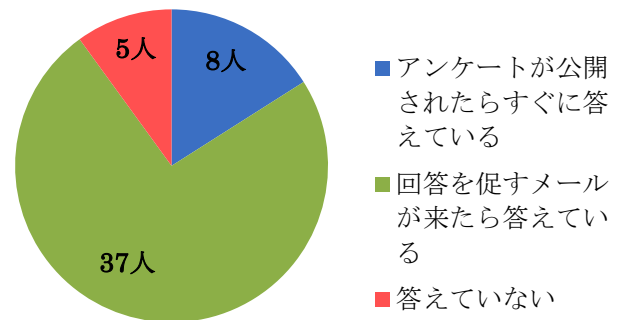


図 6-1 問 1 の質問に対する回答の割合

質問の選択肢は「a. アンケートが公開されたらすぐに答えている」「b. 回答を促すメールが来たら答えている」「c. 答えていない」の 3 つとした。その結果、「アンケートが公開されたらすぐに」と回答した学生は 50 人中 8 人（16%）、「回答を促すメールが来てから」と回答した学生は 37 人（74%）、「答えていない」と答えた学生は 5 人（10%）であった。「回答を促すメールが来てから答える」と「答えていない」と回答した学生が全体の 84% を占めていることから、学生の授業評価アンケートに対する意欲は低いと言える。

2. 授業評価アンケートに回答する際に基準としているものは何ですか。(複数回答可)

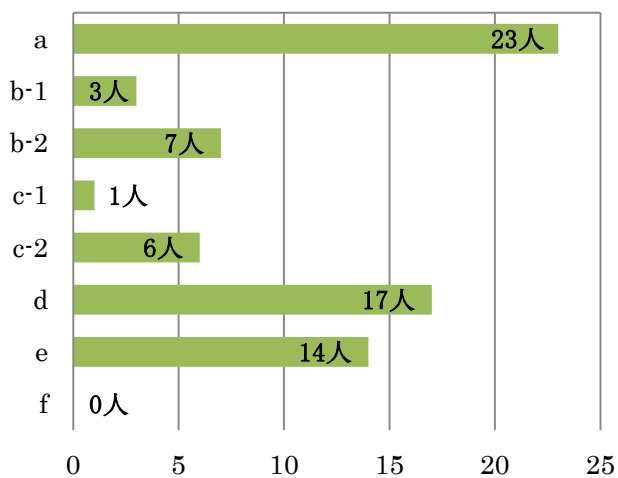


図 6-2 問 2 の質問に対する回答

選択肢は「a. 質問の通りに考えて答えている」「b-1. 内容が難しい授業の評価を高くしている」「b-2. 内容が易しい授業の評価を高くしている」「c-1. 課題の多い授業の評価を高くしている」「c-2. 課題の少ない授業の評価を高くしている」「d. 好きな先生の授業の評価を高くしている」「e. 何も考えずに評価している」「f. その他」の8つとした。結果は、「質問の通りに考えて答えている」が23人、「内容が難しい授業の評価を高くしている」が3人、「内容が易しい授業の評価を高くしている」7人、「課題の多い授業の評価を高くしている」1人、「課題の少ない授業の評価を高くしている」6人、「好きな先生の授業の評価を高くしている」17人、「何も考えずに評価している」14人となり、最も少ない回答が「その他」の0人となった。

最も多い回答は「質問の通りに考えている」であったが、全体の半数に至っておらず、こちらの結果からも問1と同様、学生の授業評価アンケートに対する意欲の低さが見て取れる。また、次に回答数が多かった選択肢は「好きな先生の評価を高くしている」、「何も考えずに評価している」と続いており、約3割前後の学生が教員の好みや作業的な感覚で授業評価アンケートを行っているという状態となっている。さらに、b-1・b-2とc-1・c-2の選択肢では、それぞれ「難易度が高い」と「課題が多い」より「難易度が低い」と「課題が少ない」の選択肢の方の授業の評価を高くしているという回答が多いという結果となっている。これらの結果は、先述した難易度が低い授業程高い評価を得る傾向にあるという統計を裏付け

ており、また学生は内容が易しい、課題が少ないなどの総じて自分にとって楽な授業に高い評価をつけていると言える。

3. 授業評価アンケートは必要だと思いますか。

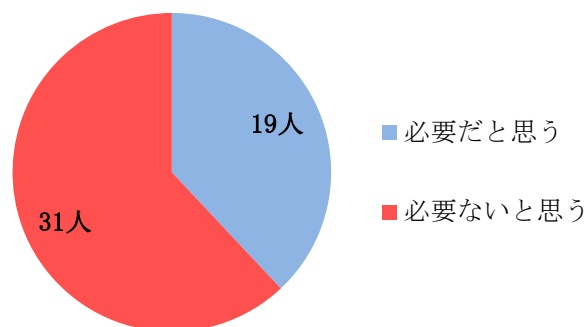


図 6-3 問 3 の質問に対する回答の割合

授業評価アンケートは必要だと思うかという質問では、50人中19人(38%)が「必要だと思う」と回答し、31人(62%)が「必要ないと思う」と回答しており、授業評価アンケートに対して必要性を感じていない学生がそうでない学生を上回っていた。次の問4では「必要ないと思う」と回答した31人の学生に対し、その理由を質問する。

4. 問3で「必要ない」と答えた方へお聞きします。なぜ「必要ない」と思いますか。(複数回答可)

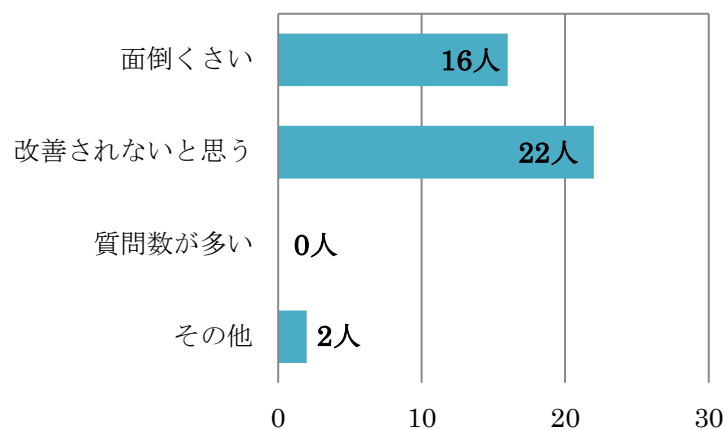


図 6-4 問 4 の質問に対する回答

問4では前問で「必要ない」と回答した学生に対して行った。選択肢は「a. 面倒くさいと思うから」「b. 答えても先生や講義が改善されないと思うから」「c. 質問の数が多いから」「d. その他」とした。「その他」の選択肢には自由回答欄を設けた。結果は「面倒くさいから」が16人、「改善されないと思うから」が22人、「質問数が多いから」が0人、「その他」が2人となった。このうち、「面倒くさいから」と「改善されないと思うから」の両方を回答した学生が9人いた。

最も回答数が最も多かったのは「改善されないと思うから」という答えであることから、学生たちは授業評価アンケートに対して意義を感じていないことがわかる。また次に多かった回答が「面倒くさいから」であることから、これまでの質問と同様に学生のアンケートに対する意欲は低いと言える。回答の中には「その他」を選んだ学生が2人いたが、その内容は「どうせみんな適当に答えるから」「ただの票取りになっていると思うから」というものであった。これら2件の回答からも、学生がアンケートに対して意義を感じていないことが考えられる。

5. 授業評価アンケートがどのように改善されればいいと思いますか。

問5は自由記述式とした。無記入も含めて様々な回答が得られたが、重複する内容の回答も多々存在した。それらは大きく分類すると「アンケートの方法について」「授業の改善について」「その他」の3つに分けられる。それぞれの内容については以下の通りであった。

○アンケートの方法について

- ・ポータルから答える方式が面倒。(16人)
- ・アンケートを授業の最後に行くようにする。(10人)
- ・質問数を減らす。(3人)
- ・匿名性を高くして素直な意見を書けるようにする。(2人)
- ・ポータルシステムが重い。
- ・ポータルシステムの不具合が多い。
- ・学生側にメリットを作る。
- ・質問の内容を授業によって変える。
- ・1年間すべてのアンケートに答えると単位がもらえるようにする。
- ・改善点や意見を必ず全員回答するようにする。
- ・回答しなくても単位あった。
- ・アンケートを無くす。

○授業の改善について

- ・評価を教員にもっと目に見えるように反映させる。(6人)
- ・アンケートが教員評価につながると、学生のご機嫌を伺う簡単な授業しかなくなる可能性があるのでは切り離すべきではないか。(2人)
- ・評価の低い教員にペナルティを付ける。

- ・各教員がどこをどう改善したのかを掲示する。

○その他

- ・アンケート回答の催促メールの言い方が腹立つ。(3人)
- ・無記名にして思っていることをそのまま書けるようにして欲しい。
- ・教員だけでなく学生も、相互にやる気が上昇するようにする。

回答の内容を見ると、最も多かった回答がアンケート方法についての「ポータルから答えるやり方が面倒という」であるということ、また次に多かった回答が「アンケートを授業の最後に行くようにする」という答えであったことから、大多数の学生が現在のポータルから回答する方式に否定的な意見を持っていることがわかった。その理由としてはポータルシステムの動作が遅いという意見があるものと考えられる。授業の改善についての回答としては、教員の改善を目に見える形で示してほしいという趣旨の回答が目立った。学生の授業評価アンケートへの意欲が低い裏にはこういった意見が存在しているからであると考えられる。またアンケート回答の催促メールの文面について、「答えなければ単位を与えない」という文面を嫌う回答が見られたが、一方で「アンケートに答えてなくても単位は貰えた」という意見もあった。

6. 大学の授業に何を求めていますか。自由に記入してください。

問6も自由記述式とした。この質問も問5と同じく様々な回答が得られた。内容としては主に単位や開講時間などの授業の楽しさについての回答と、専門性やわかりやすさなどの授業内容についての回答の2つに分けられた。

○授業の楽しさなどについて

- ・いかに楽に単位が取れるか。(11人)
- ・テスト(資料持込みの有無など)や課題の量。(2人)
- ・開講時間を遅くしてほしい。
- ・数学や英語などで担当教員を選べるようにしてほしい。

○授業内容について

- ・社会に出て(将来)使えるものを学びたい。(15人)
- ・面白さ。(8人)
- ・専門性(8人)
- ・わかりやすさ。(6人)
- ・男女差などで評価を分けなくてほしい。(3人)
- ・工科大ならではの授業。(2人)

- ・目標や進路に対してためになること。(2人)
- ・先生と生徒の距離の近さ。
- ・授業の内容が将来本当に役立つのかを教えてほしい。
- ・自主性、広い視野が身につく、幅広い分野、思考力を使う、記憶に残る授業…など

また、これらの意見とは別に「特に何も求めている」という回答をした学生が3人いた。この質問では回答が授業に楽しさを求める非意欲的なものと、内容面での充実を求める意欲的なものに分かれた。回答の比率としては意欲的な意見が大きく上回っており、学生たちは授業に対する意欲は高いことが見て取れる。この結果から、授業評価アンケートに対する意欲と授業に対する意欲には相関性は無いことが考えられる。また、これらの回答から難易度とは無関係にどういった授業であれば学生が高評価を与えるのかを明らかにすることができた。

6-1. 考察

今回のアンケート調査全体を通して言えることは、高知工科大学の学生は授業評価アンケートに対する意欲が低く、意義も感じていない傾向にあるということである。アンケート回答のためにポータルシステムへアクセスする手間が掛かる点や回答を促すメールの文面(回答しなければ単位を与えないなど)への嫌悪感がある、学生側にメリットがないなどの意見が多数見られ、このような授業評価アンケートに対する否定的な印象が、低意欲の原因となっていると考えられる。意欲が低いためにアンケートを作業的に回答したり、教員の好みや授業の楽しさや難易度を基準に回答したりするようになり、結果として2章で述べたような状態に陥っていると言える。また意義を感じられない要因としては、教員の改善が見られないという意見が目立ったことから、授業内容や教員の改善を学生が実感できていないということが主であると考えられる。

しかしながら、学生が授業に求めているものは「将来、社会に出てから使えるもの」や「専門性」などの内容面での充実を重視している回答が多いことから、授業に対する意欲は高いことがわかった。このことから授業評価アンケートに対する意欲の低さは、授業への意欲とは関係なく、授業評価システムそのものに問題があると考えられる。授業評価システムによる適切な教員評価を行うためには、この問題を改善する必要がある。

7. 問題点と改善案

今回のアンケート調査から見える現行の授業評価システムの問題点としては、主に授業評価アンケートの実施方法、学生への教員の改善結果の周知不足、アンケートの内容の3点が挙げられる。

○授業評価アンケートの実施方法についての改善案

今回の調査の結果、学生たちは授業評価アンケートの回答にポータルシステムにアクセスする必要があることに対して不満を感じていた。このことから、アンケートをポータルシステムから切り離す必要がある。そこで、授業評価アンケートを紙面で行うこととし、各クォーターの授業の最終回や期末試験直前回で配布と回収を行うように変更する案が考えられる。授業時間内で行うことで、授業への出席率や回答率の向上が図れる効果も期待できる。また現在のアンケートでも匿名性という形となっているが、ポータルからの回答であるため学生側では匿名ではないと考えられている。無記名の紙面での回答方式に変更することで匿名性が増し、学生もそれを認識することで、より素直な意見を得ることが出来るのではないだろうか。

○学生への教員の改善結果の周知徹底について

学生たちが授業評価アンケートに意義を実感できていない要因としては、主にアンケート結果を受けた教員の改善内容が学生に知らされていないことにある。したがって教員の改善点などを学生の目に見える形で公開する必要がある。どのような意見・要望があり、それを満たすためにどのように変更したかなど、具体的な内容で公開することで、学生に対してしっかりと改善が行われていることをアピールすることが出来る。そうなれば、学生がアンケートの意義を実感し、さらに有用な意見を引き出せるのではないだろうか。公開の方法としては学内掲示板や、初回の授業内で発表を行うなど、自然と学生の耳に入る形が好ましいと言える。

○アンケート内容について

現在のアンケート内容では教員側と学生側の授業への取り組みと、学生が授業内容を役に立つと感じるかなどとなっている。この内容の問題点としては、達成目標の明示の有無などの質問内容に関して、学生側が認識していない、または記憶していないことが多いという点である。そのため授業の難易度や楽しさを回答の基準にしてしまっているのではないかと考えられる。このことから、アンケートの質問内容そのもの

を変更する必要がある。アンケートを現在の問5、問6のように学生が判定しやすい質問に変更し、教員については授業の分かりやすさや進め方などではなく、教員の授業への姿勢や学生への親密さなどを問いつつ、改善点や要望などを自由記述で必ず答えるようにすることで、より正確な評価を得ることができると考えられる。

8. 今後の課題

高知工科大学は「日本にない大学」を目指し、他大学に先駆けて授業評価システムを導入したことで知られ、このシステムについては他大学も参考にしている。しかし、今回の研究で学生たちの授業評価システムに対する意識を調査し、決して良好に機能しているとは断言できない現状にあることが判明した。学生に対して行う調査を教員評価の基準の一つとしている以上、学生たちのアンケートに対する関心をできるだけ高く保つことが課題であると言える。真に「日本にない大学」を目指すのであれば、常に問題の可視化と改善を繰り返し、他大学の先に立ち続ける努力を怠ってはいけないのではないだろうか。

参考文献

[1] 高知工科大学 HP

http://www.kochi-tech.ac.jp/kut/for_students/education_and_research/class_evaluation.html

[2] 高知工科大学における教員評価システムについて

http://www.mext.go.jp/a_menu/kagaku/hyouka/04122101/005.pdf

[3] 学生による授業評価の結果と分析：初期データの考察

<http://kutarr.lib.kochi-tech.ac.jp/dspace/bitstream/10173/122/1/196-205.pdf>

[4] 大学における授業評価の問題：社会科学者の随想

<http://blog.livedoor.jp/bbgmgt/archives/2782302.html>